



1. 東部廣間改札附近より市地下鐵との連絡階段を望む。

大阪阪神電車梅田地下線工事概要

阪神電氣鐵道株式會社技師長 泉 谷 平 次 郎

着工以來僅2年と數ヶ月の短時日を以て去る3月當社出入橋梅田の地下線が開通した。次にその概要を述べることにする。

1. 停留場と其の設備

當社梅田停留場は省線大阪驛前御堂筋の道路下にある終端停留場にて省線大阪驛、大阪市地下鐵、同市電等に連絡してゐる。乗降場のあるは第二地階にして、線路は四本あり、其の各線路を挟み五つの乗降場を有し、乗降場の長さは約105米乃至134米、電車7輛乃至9輛を發着せしめ、幅は中央のもの5米、兩側のもの3米にて、乗降客の混雜を防ぐた

め、乗車と降車とのホームを區別し、柱の大理石の色にて容易にこれを識別し得る様になつてゐる。乗降場の東端は廣間とし、こゝに出札室、改札、驛長室、手荷物預所、案内所、公衆電話室、化粧室等終端停留場として必要なる設備を整へてゐる。廣間正面大階段及びエスカレーターにより地下廣間を経て省線大阪驛の東口、市の地下鐵、市電の安全地帯等へ連絡してゐる。(平面圖参照)廣間を南面すれば停留場本屋(阪神ビル)にて正面に大階段、地上まで直通の三臺並列エスカレーター及びエレベーター等を設け、容易に地上へ出